

「先生、なんとかして」

「先生、ひろゆき君がいじめられた。」

それは一泊二日の体験合宿の二日目の朝のできごとでした。

ひろゆき君には、感情が高ぶつてくると自分をたたくくせがあります。そのよつすを、たまたま同じ日に合宿に来ていた他の小学校の人たちも見ていたのでした。そのなかの三人がひろゆき君に近づいて来て、目の前で自分をたたくひろゆき君のまねをしてみようか、背中をたたいて、逃げて行ってしまいました。そのよつすを見ていた人が

「あまりにひどい。先生、なんとかして。」

と先生に言ってきたのです。ひろゆき君は背中を押さえて、

「いたい」と言いながら、くやしそうな泣き顔をしていました。

先生がこの事件を知っている人たちと話をしていると、その

ほかの人たちも聞きつけて集まって来て、クラス会議になりました。

そうすると、この事件の前にもいろんなところでひろゆき君がからかわれたり、

笑われたりしていたことがわかりました。みんな話を聞いているうちに、先生も思い出しました。その小学校と初めて顔を合わせた出会いの集いの時、ひろゆき君は、前の方へ出て行って、壁にはってある絵を見て歩き回っていました。やがて落ち着いて自分の場所にもどったのですが、それを見てニヤニヤ笑っている人が何人もいたのです。

呼びかけ文

私たちの話を聞いてください。それは、私たちのクラスのひろゆき君のことです。きのうから、ひろゆき君を見て笑ったり、自分をたたくまねをしてからかったり、たたいたりするのを見ました。それを見て私たちは、たまらない気持ちになりました。それで、少し時間をもらって、ひろゆき君のことを話させてください。

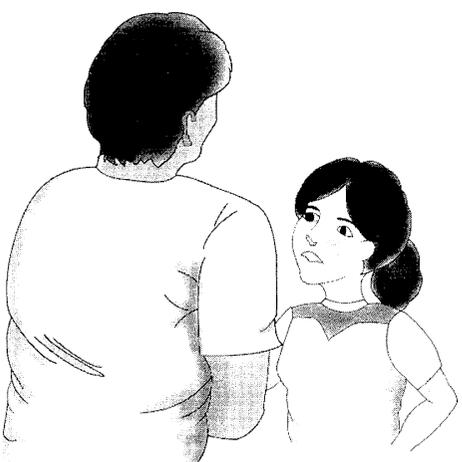
ひろゆき君はわがままなところもあるし、おこつてものを投げたり、がまんできなくて自分をたたくこともあります。授業中もかつてにぬけだしたり、ねてしまったり、授業に関係のないことを言ったりもします。そんな時、私たちはどうしていいかわからないときもあります。

でも、ひろゆき君といっしょにいるとおもしろいことがいっぱいあります。だれかが泣いていたりすると、頭をなでてなぐさめてくれたりもします。そんなとき、やさしいなあと感じます。

ほかたちは、一年生の時からひろゆき君とずっといっしょでした。だから、ひろゆき君のことをよく知っている、大切な仲間なのです。これから、ひろゆき君となかよくしていきたいと思うのです。

どうにか分かってください。そしてなかよくしてください。

勝手なことを言ったかもしれません。聞いてくださってありがとうございます。



「先生、なんとかして」 (小学校高学年向け)

A 教材設定の意図

差別に自分もしくは身近な人がさらされた時、人はどうするであろうか。

あまりのことに、声を荒げて、感情的に抗議をしたり、またその正反対に何も言えずにくやしい思いだけが残ったり、と後悔をしてしまう対応が多いのではないだろうか。

差別に対する怒りを持つことは大切なことである。身近な人が差別を受けた場合もその痛みと怒りを自分のこととして受け止め、共感しながら、差別した者に伝えることが必要になってくる。そのことを土台にすることによって、初めて人に伝わるものが生まれてくるであろう。また、自分が差別を受けた時についても、相手に対する怒りを持ちながら、相手にその痛みと怒りを伝える場面が生ずる。そして、互いに分かり合うためには、逆に自分自身が差別にきちんと向き合っているかがためされるであろう。

本教材では、ひろゆき君とそのクラスの仲間たちが出会った差別にどう向き合ったか、そして、その痛みをどう伝えたかを通して自分たちがそういう場面に会ったらどうするかを考えてほしい。

B 教材の解説

本教材は小学校六年での取り組みを元になっている。

ひろゆき君には知的な障害がある。そして、大切な仲間の一人として一年生の時からみんなと成長し合ってきた。そんなひろゆき君が他校の子どもたちからいじめられた時、その場に居合わせた子どもたちは一人では相手に何も言えなかった。「先

生、なんとかして。」と担任に訴えてきた子も同様であった。

しかし、このクラスには日頃から、仲間を大切にしようとする関係があった。だから、自分だけではなんともしようがないことをみんなで相談することができた。

どうしたら相手に自分たちの思いが伝わるのだろう、と子どもたちが相談した結果、ひろゆき君のことをよく知らないから、表面的な行動を見てからかうのだと子どもたちは考えた。そして、彼が自分たちにとって大切な仲間の一人であることを自分たちの言葉でいいねいに他の小学校の人たちに伝えようと呼びかけ文を書くことを決めた。

実際の取り組みでは、代表の子どもが読み上げた時、相手の小学校の子どもたちは真剣に聞き、拍手が湧き起こった。伝え方は自分たちの思いが伝えることができたという思いを持つたにちがいない。

C 指導上の留意点

- 書かれた感想の中に自分の体験や思いが出されていた場合は、その思いを教師がしっかりと受け止め、子どもたち一人一人の内面に向かい合う取り組みをしてほしい。

D 参考

- 第四十七次(一九九七年度) 県教研障害児教育分科会報告「仲間とぶつかり合いながら」

岡本英嗣(美川町立湊小学校・・当時)

- 挿し絵 西尾庸之(辰口町立宮竹小学校)

教師の基本発問・助言

一 導入

① みなさんは自分がばかにされたり、ともだちがばかにされたりした場面に出会ったことはないですか。その時、どんな感じがしましたか。

二 展開

② 「先生、なんとかして」を読みましょう。

③ ひろゆき君はどんな人でしょうか。

④ こんな時、みなさんならどうしますか。

⑤ ひろゆき君のクラスはどういう方法を取ったでしょう。

⑥ 「呼びかけ文」を読みましょう。

⑦ 呼びかけ文の中でクラスみんなはひろゆき君のことをどんな人だと言っていますか。

⑧ みなさんがこんなふうに呼びかけられたらどう感じますか。

三 まとめ

⑨ 今日の学習で思ったことを書きましょう。

児童の活動・指導の要領

① 素直な思いを二、三人に言ってもらおう。もし、児童から出てこなかったら、すぐに教材文に入る。

③ 障害児であるという意見も出てくることが予想される。その時は、そうであることを率直に伝える。

④ 出てきた意見を一つ一つ板書をして、その方法で解決できるか考えさせる。

⑤ 「呼びかけ文」を作ったことを説明し、呼びかけ文を配る。

⑦ ひろゆき君は知的な障害はあるが、クラスの子どもたちは一年生からの長いつきあいで、あるがままのひろゆき君を大切な仲間の一入であると思っていることをとらえさせる。

・ 私たちをどうしていいかわからなくさせるひろゆき君

・ だれかが泣いていると頭をなでしてくれるひろゆき君

・ 一年生の時からずっといっしょで大切な仲間であるひろゆき君

⑧ 他校の児童はひろゆき君のことを知らなかったことでいじめていたことに気づかせる。

⑨ 自分やともだちがばかにされたりした場面をもう一度振り返りながら書かせたい。